
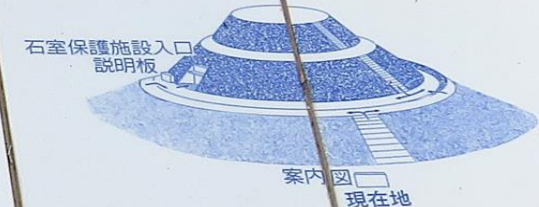


弘化谷古墳(八女郡広川町)

前方が弘化谷古墳/6世紀中頃築造の二段築成の円墳/手前に説明板がある



周濠と周堤が巡っている

弘化谷古墳		国指定史跡八女古墳群	
		昭和52年7月19日 指定	
1 所在地	福岡県八女郡広川町大字広川字弘化谷		
2 築造年代	6世紀中ごろ（古墳時代後期）		
3 外形	高さ約7m、直径約39mに復原される2段築成の円墳。濠と周堤を含めた外径は、約55mとみられ、当地方では最大である。		
		石室保護施設入口 説明板 案内図 <input type="checkbox"/> 現在地	
壁画保存のため、常時公開はしていません、 公開日問い合わせ先 広川町教育委員会 電話 0943-32-1111			



その少し左手から見たところ

[video](#)



左手から墳丘に近寄ってみよう！/道路で墳丘の裾が一部削られてしまっているようだ

 [video](#)



こんな塩梅

[video](#)



周濠へ進む




ここにも説明板がある



横穴式石室の入口があるが、施錠されていた



見どころは石屋形の装飾壁画のようだ

国指定史跡八女古墳群				(昭和52年7月19日 指定)	
弘	化	谷	古	墳	広川町教育委員会
1 所在地	福岡県八女郡広川町大字広川字弘化谷				 石屋形装飾の壁画
2 築造年代	6世紀中ごろ（古墳時代後期）				
3 外形	高さ約7m、直径約39mに復原される2段築成の円墳。濠と周堤を含めた外径は、約55mとみられ、当地方では最大である。				
4 石室	西南西に開口する横穴式石室で、昭和45年3月に果樹園造成工事中に発見されたため大破した。割石を積みあげた石室の正面に、県内では珍しい肥後系統の石屋形を設置しているのが大きな特色である。石室は、現存、長約4.5m、最大巾4.1m、高さ3.6m。				
5 出土品	盗掘を受けているため、イアリング・管玉やシリ、土器など、副葬品の一部が残っていない。				
石屋形の奥壁、両側壁・天井石の内面と前面小口の計7面に、赤・緑・黄の3色で三角形文・双脚輪状文・円文・矢筒（鞍）などを描き、上段の7個の鞍だけは輪郭を線刻する。なお、双脚輪状文は、桂川町・王塚古墳など全国でも4例しかない極めて珍しい文様だが、意味は不明。					

そのレプリカが広川町古墳公園資料館にあるようだ



それでは墳丘に登ってみよう！

[video](#)



左手に周濠を見たところ



同じく、右手に周濠を見たところ



二段築成の途中(テラス)まで登ったところ



そこで、左手にテラスを見たところ



同じく、右手にテラスを見たところ



ここが墳頂



墳頂で、北方向を見たところ



同じく、東方向を見たところ



同じく、南方向を見たところ



同じく、西方向を見たところ



中央前方は墳頂から見た成田山久留米別院の救世慈母大観音像



さて、ここは広川町古墳公園資料館



これは弘化谷古墳の横穴式石室内部に安置された石屋形とその内壁に描かれている装飾壁画のレプリカ



弘化谷古墳の壁画

みなさんの前にあるものは、公園内にその姿を復元している「弘化谷古墳」の石室（せきしつ）のなかに造られた石屋形（いしやかた）と、その内壁に描かれている装飾壁画（そうしょくへきが）のレプリカ〔実物そっくりに作った模型〕です。

この「石の家」のような石屋形の中に、地域の有力者が死んだ後、横に寝かされ、永遠の眠りについたのです。

わたしたちは、紙によく絵を描きます。弘化谷古墳では、亡くなった有力者の魂が安らかにしずまることと、死者に悪霊（あくりょう）などが近寄らないことを願って、古代の絵のうまい人が、平たい石に赤や緑の色を塗り、靫（やき）〔矢（や）づつ〕・同心円文（どうしんえんもん）・双脚輪状文（そうきゃくりんじょうもん）・三角文などの文様を描いたのです。この壁画には、「まじない」的な意味もあったと思われます。

双脚輪状文のはなし



弘化谷古墳石室石屋形の壁画



王塚古墳



横山古墳



釜尾古墳

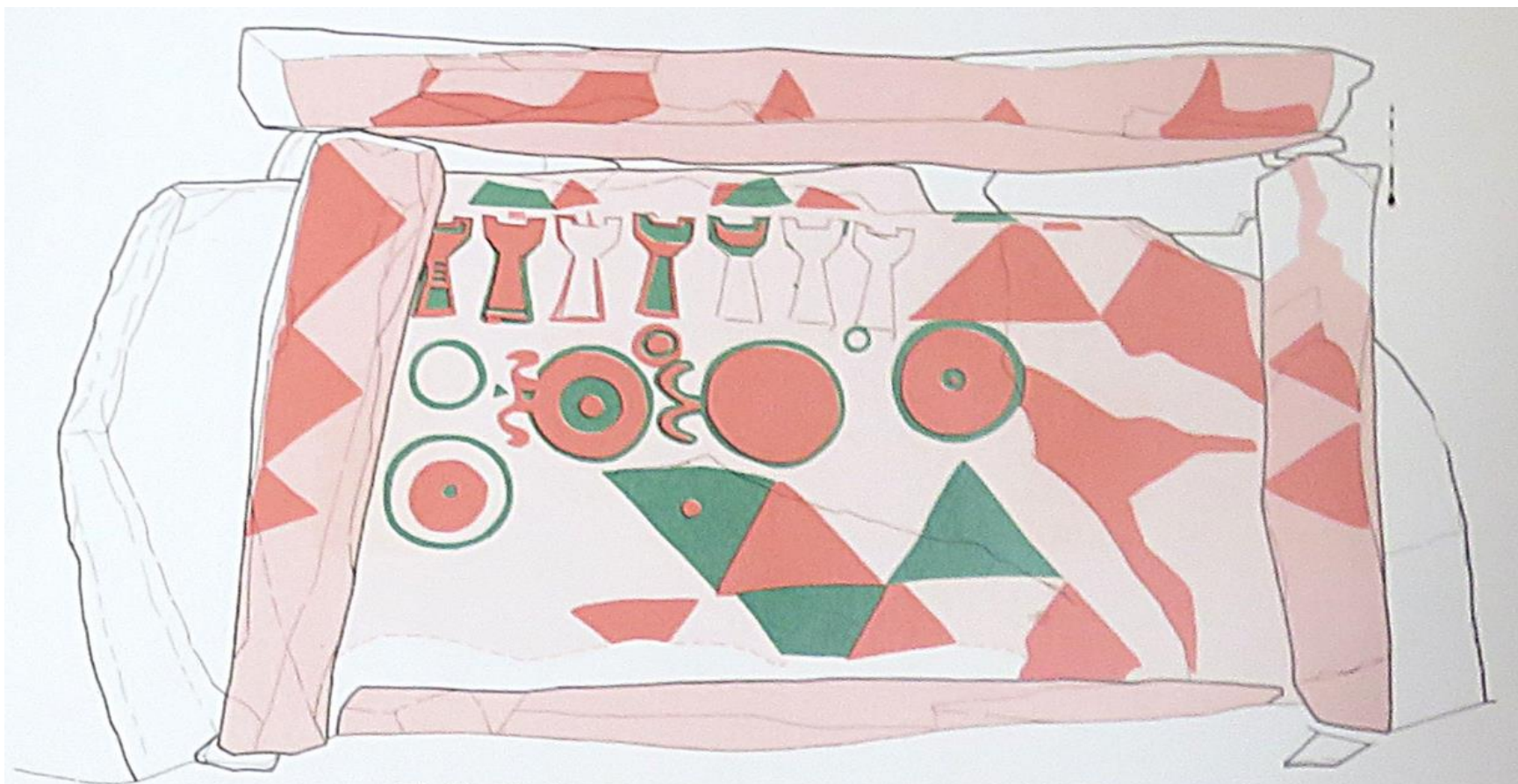
石屋形の中を見てみましょう。壁画の真ん中の左よりに、円文から「たこ」の足のようなものが、2本のびている文様が2個ならんでいるのがわかると思います。

そうです！この文様が、双脚輪状文（そうきゃくりんじょうもん）です。この文様は、日本でも九州の福岡県と熊本県の四つの古墳で発見されているだけです。

どうですか？不思議な形ですね。何をもとにして描かれたのでしょうか。「翳（さしば）」と呼ばれる大きな団扇（うちわ）がもとになっているともいわれますが、まだよくわかっていません。

しかし、弘化谷古墳に永遠に眠る人の生きていたころの実力を示すと共に、魔よけの意味が込められていたことは確かです。





弘化谷古墳石室石屋形の壁画実測図

石屋形の奥壁には、靫（矢筒）・連続三角文・同心円文・双脚輪状文が濃淡の赤色と、緑泥片岩の地色を生かして描かれています。

装飾文様には、被葬者に悪霊がつかないように辟邪の意味が込められていたと考えられます。双脚輪状文は極めて珍しい文様です。

